（別紙4）　　平成　　26年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2376500357		
法人名	社会福祉法人　寿宝会		
事業所名	グループホーム輝楽苑　コーポB		
所在地	愛知県豊川市御津町御馬浜田148番地		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉総合研究所（株）
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26
聞き取り 日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

輝楽苑独自の理念である「共に生きる仲間　旅立ちの日まで真心込めて　今日一日に想いをこめて」の通り、“今日が最後の日になるかもしれない。今日が一番いい状態である”という気持ちで介護を行っている。
研修についてはリーダー研修・生活支援技術研修が定期的に行われ、今年度より講師の現地入り指導も加わり、法人の介護理念どおり「すべては利用者様の笑顔のために…」を実現すべく取り組みが行われている。
地域とのつながりも大切に考え、保育園児との交流やご近所のボランティアさんの来苑、月1回の地域のサロンへの参加、おやつの買い出しなど行っている。また、地域で困っている1人暮らしの方に対する協力や、認知症カフェが実施できるように法人としても取り組んでいる。
利用者様と出来る限り最期まで一緒にいたいという気持ちで介護させていただいており、医師との連携で24時間安心した介護が提供できる体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別に独自の理念を掲げている。“今日が最後の日になるかもしれない。今日が一番良い状態である。”という気持ちで、個々のペースに合わせて生活できるよう取り組んでいる。毎朝、申し送り時に唱和し、念頭に置き業務についている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を行いながら地域の方とのあいさつ、地域のコンビニへ買い物に出かける、地域の図書館を定期的に利用するなど昨年より活動が活発になった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の1人暮らしの方に対し、困っている事があれば施設に来て頂けるよう伝え、協力できる体制をケアマネジャーと連携し取り組んでいる。また、地域の住民に対し、介護相談の窓口を作り、回覧等で周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設のありのままを報告して見ていただき、意見をいただいている。防災訓練も年2回行うが、毎回運営推進会議の中で行い講評をいただいている。農作業についての指導やボランティア募集など意見をいただいている。運営推進会議には利用者様も参加するようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村に出向いたりし、連携を図る努力をしている。認定調査時には立ち会い、状況報告等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っているが、利用者様の部屋は昼夜問わず個人に任せている。危険が伴うと予想される方に対し、特に見守りを強化し拘束なしで快く過ごしていただけるよう努めている。また、歩行不安定な利用者様に対しても動き出した時は動いていただけるよう職員が協力し合って自由に過ごせるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、お互いに注意できるような風通しの良い職場作りを心掛けている。また、勉強会にも参加し、意識付けを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶと共に、いつでも見れる場所に資料は置いてある。ご家族に対しても説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ十分説明し、納得を得た上で入居に結び付けている。施設としての出来る事や出来ない事もこの場で説明している。ターミナルケアに関しても契約の段階でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にアンケートボックスが置いてある。面会時にはコミュニケーションを取り、要望等があれば言っていただける環境を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアチーフとホーム長とのコミュニケーションはとれており、気付いたこと、提案する事があれば話し合える環境になっている。法人としても業務改善委員会を設け、より良く働けるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回個々の職員に対し、評価を行っている。個々に目標を掲げており、それに向けての達成度も確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より法人にてリーダー研修、生活支援技術研修が計画され実施されている。生活支援技術研修では、リーダーがその他の職員に復命会を行い、全職員の技術が向上できるよう取り組んでいる。今年度より、講師の現地入り指導や、新人職員に対してはOJTにて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県GH連絡協議会　東三河ブロックでは、今年度も輪投げ大会が計画されている。他施設の職員との交流ができる機会となる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、希望や要望を聞き入れサービスに反映するようにしている。また、第一印象を大切にしながら接している。また、できる限り要望を聞き出すようにしている。入居申し込みをいただいた1人暮らしの方に対し、少しでも施設の職員と顔馴染みとなれるよう、ボランティアとして来苑いただいたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の抱えている悩みや問題について聞き共感し、解決に向けてのアドバイスをしたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学に来ていただき、本人・家族の方に環境の説明を行っている。また、待機期間が長くなるようであれば、他事業所の紹介を行い、ご家族に選択肢を与えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、得意な事は行っていただき、常に共に生活する事を意識している。できる事は継続して行っていただけるよう配慮している。出来ない所は自信をなくさないようにさりげなく行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に声をかけ、近況を報告しご家族の思いを聞き出すよう心がけている。何かを決める際には必ずご家族に相談し、意見を取り入れている。また、家族交流会を開催し、職員との交流にも努めている。今年度は、施設でできた野菜を使用しカレーライスを作り会食した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で馴染みの場所への買い物や、喫茶店への外出も行っている。また、自宅へ定期的に帰るケアプランを作成している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、相性を知り、気の合わない利用者様との距離やトラブルにならないよう注意している。孤立してしまっている利用者様には職員が寄り添っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショート利用された方に対しては、他施設へ入所されていても面会に行き馴染みの関係を継続できるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで話し合っている。本人の思いや、その方にとって良い方向に行けるように検討している。同じ言葉を発しても意味がいくつもある事も頭に入れ、その時その時にあった対応を考え行動している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	分からない事はご家族からの情報や経過を知り、これまでの生活環境を取り入れるようにしている。夕食前に入浴し、パジャマに着替えてから夕食を召し上がられる習慣の方に対しても自宅での生活に近い状態を保てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、毎日の記録に目を通し、日々の状態に合わせ支援している。できる事は継続、できそうな事は声かけし、どこまでできるか把握するようにし職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、家族・本人の思いを大切に考えたケアプランを作成している。また、定期的に話し合いの場を設け、意見交換を行って上で作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録、また、他にこれから活かせそうな事等の記録を残したり、口頭で伝えたりし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調、状態の変化に応じて職員同士で話し合い、ケア内容の変更もしている。本人の思いも大切に考え、出来る範囲内でサービスを提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回地域のふれあいサロンに参加し、地域とのつながりを実感できる時間となっている。また、毎日コンビニエンスストアへ出掛ける利用者も見え、認知症に対する理解を得られるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より月2回の往診がある。その他、家族が希望する医療機関の利用も行っている。主治医との連携も密に行い、他科受診が必要な場合は紹介状を書いていただけ、Dr同士の連携も図られている。ご家族との話し合いも往診時に行っていただけている。 口腔内のチェックを希望される利用者様は、個々に訪問歯科との契約でチェックを行っている。毎週往診がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に日頃の健康管理を健康管理表にて確認していただき、助言・指導いただいている。異常時には電話にて連絡を取り、医療面でのバックアップ体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院に細かな情報提供を行っている。家族の方との連絡や、病院関係者から情報を得て、現状や今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に合わせて、家族の方と医師を交えて話し合う機会を設けている。施設で出来る事・出来ない事を話し、理解を得ている。ご家族・利用者様の希望を尊重した対応を心掛けている。ターミナルケアを行うことで職員が自信を持って介護を行えるようになってきている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にも慌てないよう、対応方法を書面化し、目の届くところに置いてある。夜間帯の連絡方法も確認できるようになっている。救命講習を受け、緊急の場合慌てない取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練行っている。その他、2か月に1回自主防災訓練として避難ルートの確認や消火器の使用方法の訓練等、計画を立て実行している。運営推進会議の中で防災訓練も実施し、意見をいただいている。防災無線がある事で地域の様子も分かるようになっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は鍵がかけられるようになっており、個々の判断で施錠されている。言葉遣いチェック表・接遇、マナーチェック表で評価し、今年度からは尊厳保持のチェック、高齢者虐待についてのチェックを行い気をつけている。個々の性格や関係に基づき、一人ひとりの個性に合わせた接し方をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護側が押しつけるのではなく、利用者様に決めていただき無理に何かを行っていただく事はしない。本人の意思で行えるように声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りながら自己のペースで過ごせるように配慮している。「洗濯をしてほしい」等、要望が言える状況になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等も自己にて選び、着る事ができている。白髪染めも希望があれば行っている。アイロンがけを希望される利用者様にはアイロンを渡し、自己にて掛けていただけるよう持っている力を発揮している。月1回の訪問理容で希望に沿いカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自己摂取がなかなか進まない利用者様に対しては、講師の現地指導において「ワンプレートにし食べやすい工夫をしてはどうか」との指導をいただき、手づかみになったとしても自己にて摂取していただけるよう工夫している。また、握力の弱い利用者様に対してはフォークの柄を太くしたりし本人が食べやすくなるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は一目でわかるように表にしてある。水分を摂らない利用者様に対しては好む飲み物や、容器の検討等行い、できる限り摂取していただけるよう取り組んでいる。また、ポカリゼリーにして水分補給もしている。午前のおやつ時は、喫茶メニューとして数種類の飲み物から好きなものを選んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて行える利用者様へは声かけを行い、介助が必要な利用者様は職員が行っている。口腔内の観察も行い、磨き残しがある場合は介助させていただいている。希望者は訪問歯科を利用していいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレにて行えるように表情や行動を観察している。個々の排泄パターンを知る為に、排泄チェック表も水分との関係や、行動についても記入できるようになっている。失敗してしまった場合は、同性介助にて羞恥心を少しでも和らげるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然排便を促すよう、トイレに座ったり、腹部マッサージ、シャワーにて刺激を与えている。水分にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己にて出来る事は行っていただいている。洗えない部分のみ介助するようにしている。足元の泡に気をつけ、流しながら入浴していただいている。希望により、パジャマへ着替えられる利用者様もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により冷暖房を入れている。また、不眠時にはなぜ眠れないのか原因を探り、眠剤に頼る事はしていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状態により安定剤や眠剤の増減を調整している。内服薬の副作用や注意事項は各フロアにいつでも見れる状態となっており、申し送りでも伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後に珈琲を提供している。散歩、買い物等外出を個別で行っている。おやつ作りの得意な利用者様に対してはプランに盛り込みできる事を行う事で、必要とされている事を実感している利用者様もいる。また、足踏みミシンがおいてある事で好きな時間に好きなものを作っている使用者様もいる。作品を文化祭に出品予定。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ帰りたいと希望される利用者様はプランに盛り込み、月2回程自宅へ帰り好きなように過ごす時間を作っている。図書館へも定期的に行き、本を借りている。買い物は利用者様と共に出掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも理解いただき、利用者様の中にはお金を所持されている方もいる。買いたい物を伝えることもでき、購入し、支払いもできる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要求があれば随時行っている。電話番号を忘れてしまっている方に対しては援助している。携帯電をを持ち、家族との繋がりを大切にされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの整理整頓を心掛けている。居間の光は刺激が強すぎる事もあり、カーテンで和らいだ光になるよう工夫している。職員の声の大きさで不穏へと繋がる方もみえた為、声のトーンや大きさに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツを置いたり、個々の好きな場所や空間を把握する事により、それぞれが思うように過ごしていただいている。中庭が広くなり、畑仕事をする利用者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家で使っていた物を持って来ていただき、混乱が最小限に抑えれるよう説明している。また、入居後も馴染みのものを持ってきていただけるよう話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の障害物を最小限にし、行動しやすいようにしている。自己にて行われる方については見守りのみで対応している。できる限り自分で出来る喜びを感じていただきたいと思い支援している。		